

■N スポーツコミッションの理念と中長期戦略について

2024/12/17 提出・2025/1/7 追記

第3回準備委員会で提案したものから、競技団体の声（11/29、12/19に開催した競技団体ワークショップ）や事業計画や定款、組織図などから検討事項を列記する。

- 1, 障がい者スポーツ（インクルーシブスポーツなど）の視点や表現を入れるかどうか
案1、「健康づくり」テーマ内に「障がい者スポーツ・インクルーシブスポーツ」などの項目立てを行い、社会福祉協議会や大学などの市内団体との連携することを目標とする（現在のNスポの運営と近く、社協が主体で事業設計・運営を行いそれをサポート・協力する）
案2、「健康づくり」テーマ内にある「子ども」「大人の生涯スポーツ」などの項目の中にそれぞれ障がい者スポーツに関わる事業を盛り込む（主体として事業を推進し、社協などに協力を仰ぐイメージ）
- 2, 「指定管理」のテーマについて ※本資料最後に案を記載
前回の会議の中で、指定管理についてはあくまで市から受託するというものなので、Nスポで指定管理施設に関する将来像の設計はふさわしくないのではないかという意見があった。この表現については「施設の効果的な活用」などと表現を変更して、「スポーツ環境の持続的な運営と充実のために市との協議・連携を行う」というスタンスにするほうがよいのではないか
- 3, 競技団体の声として以下が上がっているため、盛り込んでいきたい

◎他の提案（事業計画案など）への整合性

- 4, 事業計画について
「マーケティング・広報活動事業」について、今後企業や個人の会員・協賛・寄付金の拡大とが必要になるため、それにまつわる事業を入れて欲しい
- 5, イベント等の主催及び協力事業
現在、主催と協力が混ざっているが、基本的に主催イベントは各事業（ジュニアスポーツ、健康づくり、マーケティング、施設活用）の目的に紐付くものであるため、それぞれ該当する事業内に振り分けてはどうか。理由としては、目的に紐付かない事業は「やる」ことが目的化し適切な改善や、場合に寄っては中止などができなくなるため。
協力・協賛などのイベントについては、現在の様に「イベント協力・協賛」としていれておくで良い。役割としては「スポーツ環境の充実を図るために市民や他団体が主催する大会をサポートする」という目的となる。
- 6, 競技団体ワークショップより
すでに事業内に盛り込まれているが、以下の通り出てきているので今後事業の詳細を決定する際には

本3年・6年・10年戦略を参考にして、適切に2年目以降の事業設計をしてほしい。

- ① 大会・合宿誘致
- ② スポーツ機会の創出（大人～高齢者）
- ③ 子どものスポーツ体験の充実（幼児～小学生／マルチスポーツ、きっかけ、日常で）
- ④ 中～高校生のスポーツ環境（ソフト、ハード、仕組み）
- ⑤ 指導者の育成、充実、増やすために

施設管理に関する内容の変更案

【中長期戦略】

■10年後に起きていてほしい状態

（ここに関してはNスポが主導する事業というより「起きていてほしい状態」を示したモノなので、そのまま記載しておく）

4, 施設管理 **施設の有効活用** : 地域の持続可能なスポーツ・健康拠点の確立

- ・市内のスポーツ施設が安定的に運営され、市民をはじめとした利用者がストレスなく利用している。
- ・スポーツ施設に常勤のトレーナー（健康運動指導士など）がいて運動のサポートや相談にのっている。
- ・街中に点在する施設を総合的に管理し「スポーツタウン」化が進み、それが市内外で認知されている。
- ・地域全体へのスポーツネットワークやコミュニティを形成する場所として機能している。
- ・再生可能エネルギー導入などCO2排出削減を実現し、長期的な修繕計画が策定され、施設の寿命を延ばす仕組みと体制ができている
- ・健康データや施設利用データを活用し、ニーズに合わせた施設利用や利用者の健康増進やパフォーマンス向上に寄与できている
- ・(追記) 上記のようなスポーツ環境を生み出すためにNスポは行政や関連業者・団体と定期的な意見交換や対話の場を持っている

5, 組織体制 : 地域に根差した自律的かつ革新的な組織の実現

- ・10年先の視点をもって、人間形成と技術指導ができる人材育成とスポーツ環境の形成ができている。
- ・若手からベテランまで、多世代が活躍できる環境を整備し、組織に多様性をもたらす。
- ・**施設管理だけでなく**、スポーツを軸にしたサービス開発・提供や受託、寄付など3～4つ程度のキャッシュポイントを組み合わせ、財政基盤が多様化している。
- ・競技団体はもちろん、スポーツ関係者の声が経営と組織運営に届き、共によりよいスポーツ環境を形成する関係性と仕組みができている。
- ・業務や予算の透明性を確保し、市民や関係者への説明責任を果たしている。

■3年戦略（基盤構築期）】 目標：組織運営基盤と地域スポーツ環境の整備

4. 施設管理 施設の有効活用：運営体制の効率化

- ・組織統合による運営体制の再構築と効率化について検討するなど、データ管理システム導入の検討の開始
- ・施設利用者数やイベント参加データを把握しをデジタル化し、効率的な施設運営に活用。
- ・持続的で環境に配慮した施設運営に向けて、市との意見交換を働きかける。再生可能エネルギー導入や老朽化設備の改善計画も含めて検討の開始

【6年戦略（成長期）】 目標：基盤の活用による具体的な成果の実現 ※R10（2028）年4月～R13（31年3月）

4. 施設管理 施設の有効活用：多機能型運営の推進

- ・複数施設を総合的に管理する「スポーツエリアマネジメント」をイメージしながら体制を確立し、地域のスポーツハブとして機能強化していくために、継続的に関係各所に提案・意見交換を行う
- 再生可能エネルギー導入率の目標を設定し、施設運営のエコ化を進める。
- ・利用者のニーズに合わせたコミュニティ形成を始め、スポーツを楽しむ市民がスポーツ以外でもつながり楽しめるような施設活用を推進するを形成していく